

刈谷市 歴史の小径

れきしのこみち

東海道（今川・今岡・一里山・一ツ木）編



刈谷市歴史博物館
KARIYA city Museum of History

一ツ木①密蔵院



① 密蔵院 【みつぞういん】

三河三弘法の第3番霊場。本尊は弥勒菩薩、当初真言宗で泉田町にあった。正徳4年(1714)臨濟宗に改宗した。安永3年(1774)焼失し、後に長寿寺(現名古屋)2世が現在地に大師堂と共に再建した。大師堂には流涕大師が安置されている。



密蔵院

② 一里塚 【いちりつか】

大きな道路の側に1里(約4km)ごとに土を盛り、エノキやマツなどの樹木を植えて旅行者の道のりの目印としたもの。江戸時代には全国の主な街道に設置された。国道1号の開通により、当時の面影は残っていない。

【ひとつぎしんめいしゃ】

③ 一ツ木神明社

創建年代不明。境内に、享和元年(1801)、文化8年(1811)、同10年の常夜灯がある。境内には、一ツ木村の庄屋を勤め、村民の負担軽減のために藩と折衝を重ねた生駒基兵衛の碑(昭和5年建立)がある。



一ツ木神明社

④ 西福寺 【さいふくじ】

三河三弘法の第2番霊場。寛正年間(1460~66)阿彌陀如来を本尊とする雲涼院(天台宗)と弘法伝説にある「見送り大師」を本尊とする西福寺(真言宗)の両寺が兵火により焼失したため、草堂(跡地を蓮台と呼ぶ)に両寺の本尊をまつっていた。慶長元年(1596)両寺を合併再興し現寺名となり、のち曹洞宗に改宗する。



西福寺

⑤ 法林寺 【ほうりんじ】

開創は宝暦元年(1751)。本尊は阿彌陀如来。寺宝の「方便身尊影蓮系阿彌陀如来画像」は室町時代末期の作で、蓮如上人の息女・見玉尼が布地を蓮糸で織り、蓮如上人が如来像を描いたと伝わる。本作は、市指定文化財。